

第 34 期 事 業 報 告

〔 自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日 〕

株式会社 NHKエンタープライズ

目 次

I. 会社の現況に関する事項	3
II. 会社の株式に関する事項	36
III. 会社役員に関する事項	37
IV. 会計監査人の状況	39
V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況	40

I. 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過および成果

株式会社NHKエンタープライズ（NEP）はその強みである「制作力・展開力・全国支社のネットワーク」を活かして、大型特集番組や高精細の映像コンテンツの制作、視聴者リレーションに資する番組連動のイベントの企画制作、ライセンスの許諾、商品の販売などを手がけ、社会に大きく貢献しました。2022年12月には、新たに設立された関連事業持株会社の株式会社NHKメディアホールディングスの傘下子会社となり、一層の経営基盤強化を進めました。

当期の売上高は680億5千2百万円、営業利益は40億3千8百万円、経常利益は41億6千万円、当期純利益は41億3千6百万円で2021年度と比べ増収増益となり、また過去最高の売上高と利益にもなりました。なお、NHKに対する副次収入は14億5千8百万円で、目標の13億2千1百万円を上回り目標比110.4%となり、NHKブランドのリーチに一定の貢献を行うことができました。

NHK関連業務では、幅広い世代をターゲットに多彩な番組を制作。新たな定時番組の総合「映像の世紀 バタフライエフェクト」やEテレ「ギョギョッとサカナ★スター」「ワルイコあつまれ」などが好調で、若年層をはじめ新しい視聴者の獲得に貢献しました。また解体现場の職人技に迫る「解体キングダム」や企業の苦労や失敗を講談を交えて描く「神田伯山のこれがわが社の黒歴史」、発酵食にフォーカスした「小雪と発酵おばあちゃん」など、独自の切り口の番組を開発し新年度の定時番組となっています。ドラマでは、蘇った死者が生死や幸福の意味を問い直す「空白を満たしなさい」、高齢化社会や終活をユニークな設定で見つめた「一橋桐子の犯罪日記」などが高い評価を得るとともに、「オリバーな犬、(Gosh!!)このヤロウ」「岸辺露伴は動かない」の新シリーズが、若者を含む様々な世代を惹きつけ話題を呼びました。また高品質の4K番組制作にも注力し、ヨーロッパや屋久島からの4K大中継、各地の紀行番組や時代劇を含む多くのドラマに加え、過去の映像を4K画質に変換するNEPビデオレストアサービスによる「伝説のコンサート」シリーズなど音楽番組等で、多くの視聴者の好評を得ることができました。番組と連動した事業では、ドラマ「岸辺露伴は動かない」の衣装や小道具を集めた巡回展が仙台・富山・札幌・熊本のNHK4局で行われ、45,000人を超える人が来場しました。「カムカムエヴリバディ」「さくら」など朝ドラ旧作の、ご当地でのトークショーや

コンサートも人気を集めるなど、番組の魅力をさらに深く伝える取り組みが反響を呼びました。

イベント関連では、感染対策を継続しつつ多くの事業でリアル開催が再開。「高専ロボコン」の地区大会や「TOKYO JAZZ」は3年ぶりにリアルで行われ、会場の盛り上がり復活しました。また、東京都で初めて開かれた「全国高等学校総合文化祭」の開会行事の実施運営を受託し自治体との連携を深めたり、12月に実施した「ニッポンの未来フォーラム2022」では独自事業として初めて、CO2排出量を測定するアルバート基準に基づく制作を行うなど、将来を見据えた新たなイベント展開に取り組みました。

新規事業では、独自に開発したユニバーサルサービス「手話CG」をNHKオンラインの「天気・防災 手話CG」で試験提供することで、社会貢献をスタートさせました。また、ローカル5Gを活用したマルチカメラによるケーブルレスの演出では、総務省の公募事業として実際にドラマを撮影して開発実験を行うなど、システムの高度化を図りました。超高解像度撮影と3Dスキャンを組み合わせ、国宝など文化財をデジタル空間に立体再現する取り組みでも、美術館などとの連携を深め開発を進めました。

NEPは引き続き、社会のすべての人に貢献するさまざまな事業を推進・開発していきます。

2. 事業の分野別の概況

(1) <放送番組制作>

2022年度は、新型コロナウイルスの感染対策に十分配慮しながら制作に取り組みました。ドラマやドキュメンタリー、アニメやエンターテインメント番組などNHKのテレビやラジオ番組を合わせて14,187本の番組を制作、売上高は453億8百万円でした。

番組コンクール関係では、「忠臣蔵狂詩曲 No.5 中村仲蔵出世階段」が文化庁芸術祭テレビ・ドラマ部門大賞、第38回ATP賞優秀賞、「映像の世紀バタフライエフェクト」が菊池寛賞、「オリバーな犬、(Gosh!!)このヤロウ」が東京ドラマアウォードグランプリ、「恐竜超世界 in JAPAN」が高柳賞最優秀賞、「“玉碎”の島を生きて～テニアン島日本人移民の記録～」がATP賞テレビグランプリ、ギャラクシー賞優秀賞、放送文化基金優秀賞、早稲田ジャーナリズム大賞、BS8KNスペ「新・映像詩里山」がABU賞最優秀ド

キュメンタリー賞と数々の賞を受賞、この他にも多くのコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画部

制作3センターの調整役として、事業提案のとりまとめや委嘱業務審査会の事務局業務、業務フローの改善提案を通じて制作現場を支えました。NHKミュージックライブラリーの音源制作のほか、下半期からはデジタルシフトプロジェクトや音楽差し替え事業などにも取り組みました。また、番組制作に欠かせない、映像・音声等の編集リソースの効率的な運用と的確なマネジメントを継続して行いました。

社会情報部

NHKの経営課題に応えるコンテンツの開発に積極的に取り組みました。

総合テレビでは、ウクライナ侵攻が勃発した直後に「映像の世紀バタフライエフェクト」を立ち上げ、世界がいまなぜこうなっているのかをヒューマンストーリーで描きました。社会にNHKの公共的な価値を提供し、菊池寛賞などを受賞しました。超大型中継番組「ニッポン今つないでみたら」は、春・夏・秋の季節感と上質のエンターテインメントのなかに、ウクライナやコロナに揺れる日本人の今の気分を表現しました。このほか、総合テレビでは「チョコちゃんに叱られる!」「所さん!事件ですよ」「ニュース シブ5時」「生でさだまさし」、Eテレでは「ギョギョッとサカナ★スター」「バリューの真実」、BS1では「COOL JAPAN」「球辞苑」「BS1スペシャル」、BSPでは「ヒューマニエンス40億年のたくらみ」、BS4Kでは「4K中継・恋するローマ」「4K中継・美ら海水族館ナイトアクアリウム」、国際番組では「Trails to Oishii Tokyo」「DESIGN TALKS PLUS」など、多彩なジャンルの番組を制作しました。また、独自事業として、2025年の大阪・関西万博関連の「ブルー・オデッセイプロジェクト メディア配信事業」や、「チョコちゃんのSDGs教室」など公益性の高い取り組みを行いました。

文化部

NHKの経営課題に応えるべく、多彩な番組の制作に取り組みました。総合テレビでは講談師の神田伯山が企業の苦労の歴史を語る異色の経済番組「神田伯山のこれがわが社の黒歴史」や、俳優の小雪さんが日本各地の発酵食を学ぶ「小雪と発酵おばあちゃん」の定

時化が決まりました。また、東京ドラマアワードでグランプリを獲得した「オリバーな犬、(Gosh!!)このヤロウ」のシーズン2、人気シリーズドラマの完結編「京都人の密かな愉しみ Blue 門出の桜」、8KではM o C o s s 活用の3DCGを使った美術番組「謎解き！ヒミツの至宝さん」など大型特集にも力を入れてきました。この他、総合では「ファミリーヒストリー」、BSPでは「新日本風土記」、「英雄たちの選択」、「ダークサイドミステリー」、「世界ふれあい街歩き」、Eテレでは「ロッチと子羊」「マイケル・サンデルの白熱教室」などを制作。また、ダイバーシティの祭典「True Colors Festival」のSNS展開や、ビジネスに生きる新時代の教養を学ぶ動画コンテンツ「リベラルアーツ for business」のほか、ポッドキャストのコンテンツにも取り組みました。その中でも「聴く72時間」はポッドキャストアワードでメディアクリエイティブ賞を受賞しました。

自然科学部

総合テレビ「ダーウィンが来た!」「さわやか自然百景」、BSP「ワイルドライフ」の3定時番組を核として、撮影や演出に磨きをかけ、Twitter等デジタル展開による視聴者タッチポイントの拡大も行いました。

特集番組では、7本のNHKスペシャル（「命をつなぐ生きものたち 全3集」「超進化論 愛（いと）しき昆虫たち」「フローズン・プラネット」「恐竜超世界2 前後編」）を制作し、大きな反響を呼びました。

4Kについては映像美を追求し視聴者拡大に向け「劇的気象ミュージアム」「セティ・ゴルジュ 世界最深の谷に挑む」「GEO JAPAN 絶景100の旅 鳥海山麓・九十九島」に加え、「4K中継 絶景すべて見せます！世界自然遺産屋久島」の2時間半にわたる生放送も行いました。

また、自主事業としては「劇場版ダーウィンが来た!」第4弾を制作、北海道大学の地域創発本部、飛騨ジオパークや京都水族館など公共事業体での展示映像制作などを行いました。

さらに、アルバート認証取得を目指した番組制作や、自然映像アセット管理の将来像を視野に入れたクラウドシステムの試行利用を行い、時代のニーズに応えた作り方改革にも継続的に取り組んでいます。

地域部

コロナ対策を徹底しつつ、全国各地の自然や産物の豊かさ、日本の伝統文化、地域に暮らす人々の魅力等を幅広く伝えました。

定時番組では、BSでは「釣りびと万歳」が、美しくダイナミックな4K映像で高い評価を受け、2023年度にはBS1にも放送枠が新設されました。その他「にっぽん縦断こころ旅」「大相撲どすこい研」「イッピン」等を、継続して制作しました。総合テレビでは「あさいち」の「いまオシLIVE」で女性40代をターゲットに幅広い話題を提供、「ひるまえほっと」では、首都圏の視聴者に身近な情報を届けました。お昼の「うまいっ!」は各地の県域放送との連携を強化、再放送が16件実施されるなど活用が広がりました。2年目を迎えた「明日をまもるナビ」は、分かり易く防災を伝えるという難しいテーマに継続して取り組みました。他にも「ロコだけが知っている」「離島で発見!ラストファミリー」などで、日本列島各地を様々な角度から紹介しました。

特集番組では、「地域発8K中継」のスタイルを確立、山形・福井・愛知&静岡から3シリーズを放送しました。また、総合テレビの年始特集「神の一手を体感!」では天才棋士達の名勝負を斬新なLEDスタジオ演出で表現、高い評価を得ました。

NHKグループの大きなテーマである、地域での視聴者リレーションにも積極的に取り組み、上記番組と連動したイベント等を全国各地で年間8回行いました。

国際部

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、戦況や先行きが不透明な中、インターネット上の情報や衛星写真などのデータから現状を明らかにするデジタル調査報道

(OSINT)に力を入れました。国際放送「Digital Eye」では2回にわたってウクライナ情勢を分析、NHK YouTubeに掲載した2本の番組動画は合わせて590万回超の再生回数を記録しました。同番組はBS1でも放送し、さらに「NHKスペシャル」や「クローズアップ現代」にも展開しました。ウクライナ情勢は、侵攻直後のキーウに潜入した「BS1スペシャル」や、国際放送の定時番組「Direct Talk」「Global Agenda」

「Deeper Look from NY」でも積極的に取り上げました。食糧・エネルギー高騰、日中国交正常化50年、米中間選挙など世界情勢に即応する番組をNHK コスモメディアアメリカ、ヨーロッパとも協力して制作し、中でも「生中継・エリザベス女王国葬」(総合)は世帯平均視聴率17.5%に上る関心を集めました。

定時番組では、自分らしい生き方を求めて地方に移住する若者を追った「いいいじゅー！！」（総合・BSP）が好評で、地方局からの再放送依頼が相次ぎ、政府や自治体からも問い合わせが寄せられました。2024年のパリ五輪で日本勢のメダルが期待される「ブレイキン」「スポーツクライミング」などのアーバンスポーツも年間を通じて放送しました。

BS4Kでは「空からクルージング」「紫禁城のすべて」「空旅中国」「聖なる巡礼路に行く」「ヨーロッパ発駅ロマン」といった紀行番組を多数放送し、新BS普及の一翼を担いました。新番組開発では「ウィッシュツリー」（総合）、「ようこそ認知症世界へ」（Eテレ）、「Ethical Every Day」（国際放送）を打ち出し、今後も継続の予定です。さらにメタバースを利用した新しい視聴者リレーション活動や、国際宇宙ステーションからの中継映像をYouTubeに流す独自事業など、幅広い活動を行いました。

ドラマ部

総合テレビにおいては、新型コロナ対策を制作現場で徹底して行いつつ、多数のドラマを制作しました。土曜ドラマでは、自殺した男が蘇るという荒唐無稽な設定の中で人生を見つめ直していくという「空白を満たしなさい」、高齢化社会を見据え、孤独な老女が小さな罪を犯そうとする中で他者と出会っていき救われていく「一橋桐子の犯罪日記」、2021年に好評を博したシリーズの続編「ひきこもり先生2」の計3シリーズを制作。

「空白を満たしなさい」は国際エミー賞にノミネートされました。ドラマ10は「プリズム」とNHKへの予約購入で「拾われた男」の2シリーズを制作しました。若者向けの新たな枠として新設された夜ドラでも「つまらない住宅地のすべての家」を制作。また、テレビ70年特別企画「大河ドラマが生まれた日」では、大河ドラマが生まれた過程をエネルギーギッシュな青春ドラマとして描きました。人気シリーズ「岸辺露伴は動かない」のシーズン3も意欲的に制作、映画事業に繋げています。

4K・BSPにおいては、BS時代劇は、おなじみ「大岡越前」シリーズや「赤ひげ4」、新作の長屋人情もの「善人長屋」など多様なラインナップで、新作と変わらず広く見られました。また「定年オヤジ改造計画」「まんぞくまんぞく」などの単発ドラマに続き、年度末に「満天のゴール」「天使の耳～交通警察の夜」「悪女について」「おもかげ」と、計4本を立て続けに制作、バラエティーに富んだ内容で視聴者から反響を得ました。

独自事業はディズニー社との共同制作ドラマ「拾われた男」、Amazonプライム配信ドラマ「エンジェルフライト」、WOWOWドラマ「フェンス」などの配信・外部BS放送ドラマを多数制作。NEPの新たな制作スキームを確立しました。

「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」は、神奈川県鎌倉市と静岡県伊豆の国市でオープンした2館のリニューアルを行い、多数の来客者を得、鎌倉ドラマ館はコロナ後で初めて20万人越えの新記録を打ちたてました。

「ワープステーション江戸」はコロナ対策を行いつつ、NHK関連のBS時代劇や特集ドラマなど多数の撮影を実地。また映画や民放、ミュージックビデオなど外部貸し出しも好調で、NHKだけに頼らない、大きな業績を残しました。

エンターテインメント部

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「〇〇〇〇の演芸図鑑」「SONGS」「NHK MUSIC SPECIAL」を制作、Eテレでは「日本の話芸」「ムジカ・ピッコリーノ」「わらたまドッカ〜ン」「沼にハマってきいてみた」「古典芸能への招待」「ヒヤダ×体育のワンルーム☆ミュージック」「ワルイコあつまれ」を制作しました。BSPでは「新・BS日本のうた」「ザ少年倶楽部」「The Covers」「クラシック倶楽部」「プレミアムシアター」を制作しました。音声波ではクラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティーと多様なジャンルで、ラジオファンのニーズに応える番組を制作しました。

特集番組では、総合テレビ「ひむバス!」、BSP「歌える! J-POP」シリーズや「たけしのこれがホントのニッポン芸能史」「映画音楽はすばらしい!」「鉄オタ選手権」など恒例となっている番組を制作したほか、Eテレでは「診察中! こどもネタクリニック」を新たに開発し、2022年度につながる事業も生まれました。

4K8Kコンテンツの取り組みでは、過去映像にレストア技術を施すことで新たな創造価値を生んだ「洋楽倶楽部」「伝説のコンサート」シリーズも視聴者から大きな反響を受けました。

独自事業では、3年ぶりのリアル開催となった「TOKYO JAZZ」や、「True Colors SPECIAL LIVE」「古澤巖×山本耕史 Dandyism Banquet」などのイベント制作をおこなったほか、中国の大手配信業者への音楽コンテンツ提供業務などを展開しました。

さらに、「新・BS日本のうた」で開催局のイベントや番組に参加しての地域貢献や、「NHK紅白歌合戦」への演出・PR協力などで、NHKグループの一員としての使命を果たす事業も担いました。

語版展開部

海外ドラマでは、BS4K「大草原の小さな家」「ロング・ナイト 沈黙的真相」、総合テレビ「アストリッドとラファエル 文書係の事件録」、Eテレ「オールモスト・ネバー 夢みるバンド物語」などの日本語吹き替え版を制作したほか、アニメではEテレ「おさるのジョージ」の日本語吹き替え版も制作しています。

海外ドキュメンタリーでは、BS1の「BS世界のドキュメンタリー」やEテレ「地球ドラマチック」の日本語版を、また、NHKワールドJAPANの大型討論番組「グローバル・アジェンダ」をBS1で放送するためにその日本語版を制作し、海外の最新の話題を視聴者へ届けています。

映画関連では、BSP放送用洋画の日本語字幕版制作のほか、BS4Kで放送する「ローマの休日」「ロード・オブ・ザ・リング」などの日本語字幕版を制作し、BS4K放送の充実に貢献しました。

さらに「世界ふれあい街歩き」の英語版「Somewhere Street」を制作して、NHKワールドJAPANを通じて海外配信されたほか、NHKの多岐にわたる番組の副音声解説放送を約1,950本制作しました。

アニメ事業部

総合テレビでは、「キングダム4」「弱虫ペダル LIMIT BREAK」を放送しました。原作、アニメ共に人気の作品の新シリーズということで、幅広い層に視聴されました。

Eテレでは、Jユースを題材にしたサッカー漫画「アオアシ」をアニメ化して放送。Jリーグや様々なスポーツ番組とのコラボで、視聴者との接点や楽しみ方を広げました。また、好評を博した作品の新シリーズ「不滅のあなたへ Season2」「魔入りました！入間くん 第3シリーズ」を放送しました。引き続き国内だけでなく海外でも配信で人気を博し、「不滅のあなたへ」は国際エミー賞やベニス国際テレビ賞にノミネートされ、国際的に高い評価を得ました。

Eテレで放送した「忍たま乱太郎」「おじゃる丸」はそれぞれ放送開始30年目、25年目のアニバーサリーイヤーを迎え、特番やスペシャルエピソードの放送、インターネットでの視聴者投票などの企画で記念の年を盛り上げました。

さらに「おしりたんてい」「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」「かいけつゾロリ」「宇宙なんちゃらこてつくん」「チキップダンサーズ」の新シリーズを放送しました。

デジタルサービス事業部

Webサイト、SNS展開、データ放送、ハイブリッドキャスト、4K・8Kデータサービス、動画配信、など幅広い業務に対応できる高い制作力を活かし、NHKのデジタル発信を支えました。

「NHKオンライントップページ」「NHKワールドJAPAN」「NHKドラマ」など、基幹サイトをはじめとしたNHKホームページの制作及びSNS発信を支えました。また放送連携事業では、連続テレビ小説、大河ドラマ、紅白歌合戦などのデータ放送・ハイブリッドキャスト等の開発・運用を実施しました。

NHKの基幹デジタルサービス「NHKプラス」では、運用監視業務を担当しており、24時間365日の安定した運行を支えています。

また、放送やイベントで情報を伝達するときに、併せてコンピューター・グラフィックスの手話で同じ内容を紹介するシステムの開発に取り組んでおり、試行的なページをNHKの気象災害サイトに公開しました。NHKだけでなく一般的な活用ができるように、(株)NHKグローバルメディアサービスとも連携して事業を進めています。

(2) <イベント事業・ソフト制作>

イベント

多くのイベント事業が、継続した感染症対策を実施しながらもアフターコロナを見据え、オンラインからリアル開催に戻りつつありました。

「高専ロボコン」は、3年ぶりに高専生がリアル参加する地区大会を開催。「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ～」をテーマに、自作の紙飛行機をロボットで飛ばし点数を競い合い、11月に国技館で開催された全国大会を目指し奮闘しました。

「小学生ロボコン」も、今年度はリアル開催が復活しました。全国各地の予選会を勝ち抜いた24名の小学生ロボコンニストが池袋・サンシャインシティのオープンイベントステージに集結。多くの観客の喝采を浴びました。

医療系のフォーラムは「がんといきる～心と体 私らしく～」 「長寿の未来～記憶の見方が変わる」 「免疫のチカラ」 「心臓フォーラム～心不全から心臓を守ろう」等、合計7回開催しました。27回目の開催となった「新時代のエネルギーを考えるシンポジウム」は昨年につきハイブリッドで実施、サーキュラエコノミーをテーマに資源とエネルギーの循環型社会の実現を目指して各界の登壇者が議論を深めました。このほか、地域からの脱炭素をテーマに議論した「ニッポンの未来フォーラム」、パンデミック・気候変動など世界的な課題を内外の識者が語り合う東京大学主催の「Tokyo Forum 2022」を継続して受託しました。

大型事業の「美ら島おきなわ文化祭2022」は、開会式に天皇皇后両陛下に御臨席いただき、沖縄文化の魅力を国内外に発信することができました。また東京都で初めて開催された「全国高等学校総合文化祭」開会行事の実施運營業務を受託。秋篠宮皇嗣同妃両殿下並びに悠仁親王殿下をお迎えして総合開会式及びパレードを実施し自治体や関係各所から高い評価を得ることができました。

人気の2.5次元ミュージカル「ミュージカル 忍たま乱太郎」は、10月に12弾再演東京公演を上演。新シリーズの「舞台忍たま乱太郎」の旗揚げ公演を豊島区と共催のもと、東池袋の劇場「あうるすぽっと」で11月に上演しました。全国各地にチョコちゃんが訪ねていき、“学び”と“笑い”でエールを届けるステージショー「チョコちゃんに叱られる！笑顔を届けるステージ」は、静岡、富山、宮崎、宮古島、滋賀、秋田の6会場で実施。NHKコンテンツを活用し視聴者リレーションに貢献することができました。

展示事業

2022年、東京国立博物館は150周年を迎えました。その記念事業として「150年後の国宝展－ワタシの宝物、ミライの宝物」の制作を行いました。今日の社会の基礎となり未来へのステップとなった品々から、150年後の未来に残したいものを集めようという企画。約3ヶ月間で17万人以上の人々が訪れ、好評を博しました。

最先端技術を使って生物多様性を学ぶイベントにも取り組みました。東京都による「最先端デジタル技術を活用した生物多様性普及啓発事業」では、8KやARを活用し、都内の

自然をテーマとしたコンテンツを制作。国立科学博物館と高尾599ミュージアムにて展示し、ファミリー層を中心に楽しんでいただきました。

日光自然博物館の展示室リニューアルにも参画しました。NEPは、L字型の大型スクリーンに映像を投影する、体感型のコンテンツを制作。展示室にしながら、日光の大自然を体験できるようにしました。博物館には多数のデジタルコンテンツが導入され、デジタル技術を活用した体感型ミュージアムへと生まれ変わりました。

映像ソフト制作

東日本大震災から11年目、気象庁では「津波防災啓発DVD」の改定を行い、その制作を担当しました。津波警報を伝達する手段として新たに加えられた「津波フラッグ」に関する情報や、外国人や聴覚障害者などにも考慮した内容（手話や多言語字幕等）を追加。気象庁から全国の自治体、防災関係機関等に配布されます。

50周年を迎えた東京商工会議所渋谷支部の記念映像も制作しました。渋谷を彩る新旧多彩な事業者を紹介。50周年記念式典で上映された他、YouTubeにて配信されています。

「ビデオレストアサービス」では、「ドリフ大爆笑」など、放送外の活用例が増えてきました。過去の貴重な名場面を、現代のメディアにのせ替える取り組みが広がっています。

その他、コミュタン福島の360度シアター用映像や、かかみがはら航空宇宙博物館展示映像改定、民間企業の超高精細大画面映像など多彩な映像制作を手掛けました。

映像教材

各教科書会社からの依頼で、小学校の理科・英語、高等学校の物理・化学・生物・公民・情報などの教科で、映像教材を提供しました。

（3）＜地域での番組制作、事業＞

近畿総支社・四国支社

全国放送番組のうち、趣味・実用番組は、「きょうの料理」「すてきにハンドメイド」「まる得マガジン」、四国支社は「夏井いつきのよみ旅！」などを制作し、文化・情報番組は「歴史探偵」「こころの時代」、芸能番組は「探検ファクトリー」「新・につば

んの芸能」「日本の話芸」「古典芸能への招待」、また国際放送番組では「Core Kyoto」「Train Cruise」などを制作しました。

さらに特集番組として近畿総支社では、「元旦特集・新春開運！富士山トレッキング」「4K生中継・嵯峨嵐山 錦秋の紅葉狩り」、四国支社では夏期特集として「網の重みを未来につなげ～サラリーマン漁師の夏」を制作しました。

さらに、大阪放送局のBCP機能強化の一環として、金曜午後を生放送で編成するBKフライデーの一翼を担う「京コトはじめ」「ニュースきん5時 KINGOJIN」の制作を行いました。

地域放送番組では、近畿総支社では、「ぐるっと関西おひるまえ」「ええトコ」「関西“愛”認定バラエティー～ちゃうんちゃう？」のほか、特集番組「巨大魚&幻の魚を追い」「万博まで2年・ロボット新世紀」、また10月にはBK感謝祭として2日間のテレソンなどを制作しました。四国支社は、毎週土曜朝のナマ情報番組「ギュッと！四国」、金曜夜間では「ノルノルミシル！」「前園真聖 四国ともたび」を制作したほか、特集番組として「ドラフトまで待てない！野球王国応援宣言」などを制作しました。

NHK受託事業は、新型コロナの感染予防対策を行い公開番組や関連事業をほぼすべてリアルで開催しました。近畿では朝ドラ「舞いあがれ」、BS4Kドラマ「満点のゴール」や「大阪マラソン」トークショーに加え、展覧会「岡本太郎」の関連番組と連動した「タローマンまつり1号・2号」などの視聴者リレーションイベントを行いました。防災関連では開発推進と連携し「デジタル防災クラス」を通年で実施、大学生とコラボした「シェア防災」、企業向けのBCPセミナーも開催しました。

四国支社では公開番組に加えて特集ドラマ「二十四の瞳」のスペシャルトークショー、「ギュッと四国&よみ旅・ファン感謝祭」などの視聴者リレーションを実施しました。地域貢献イベントとして「もっと四国音楽祭2022」を開催しました。また、愛媛新聞社との共同事業「愛媛防災シンポジウム」では運營業務を担いました。

自主事業では、「世界バラ会議準備支援業務」、和歌山県「令和4年度生物多様性保全に係る人材育成事業」、大阪・関西万博会場の整備状況をドローンで記録する事業などを受託しました。「千姫フェスタ」「大阪府立大学記念事業動画」など自治体、大学からの受託や、「富士山噴火社内啓発動画」を制作するなど、企業からの受託で防災関連の映像制作にも取り組みました。

展覧会事業は、「大安寺のすべて」「よみがえる川崎美術館」「春日大社・若宮国宝展」を共催、目標とする入場者数には届きませんでした。番組などでのPRを積極的に展開しました。また、「ポンペイ展」「鏑木清方展」「スコットランド国立博物館～美の巨匠たち～」等の事務局業務を着実に実施しました。

NHK大阪ホールは、コロナ感染対策を徹底し、安心・安全な管理・運営に努めました。クラスターの発生や事故等もなく、予定されていた公演等は順調に開催することができました。

中部支社

制作部は、全国放送「歴史探偵」「あさいち」「うまい！」等に加えて、福井・若狭町と愛知・岡崎市を舞台にした8K中継を制作しました。地域放送では、金曜夜の情報番組「東海ドまんなか！LIVE」、昼前情報番組「さらさらサラダ」、土曜朝の「ウイークエンド中部」、音楽ライブ番組「Uta-Tube」等を制作。放送開始10年となる名古屋局制作の自然番組「中部ネイチャーシリーズ」では、三重県・伊吹山と北アルプスの“地図にない温泉”を制作。10年間の番組アーカイブを活用したイベントを企画事業部とともに実施しました。

企画事業部は、公開番組等の業務以外に、本社ドラマ部や地域支社と連携してドラマ「岸辺露伴は動かない」展の展示制作を行い、仙台・富山・札幌・熊本の4地域局で45,000人超が来場しました。自主事業では、企画美術展(日本工芸会陶芸部会50周年記念展、田島征三展)の全国巡回や自治体主催の大規模イベント(第17回食育全国大会inあいち、国際芸術祭「あいち2022」)を運営実施しました。

企画事業部が主催に入った展覧会「岡本太郎」展は、会期中に名古屋局ロビーで「タローマンin名古屋」を実施、制作部は関連番組「TAROMAN、東海に現る」を制作するなど多面展開し、来場者は目標の60,000人を52,000人上回り、NHKプラスの新規登録は2,656人と、視聴者リレーション活動にも貢献しました。

デジタル部門では、名古屋局ホームページやデータ放送の制作、データ情報アーカイブ管理業務のほか、中部支社が番組・イベントを制作した「全日本学生落語選手権」では初の試みとなる決勝戦の配信業務に携わりました。

中国支社

全国放送では、広島県福山市のデニム製品の最前線を見つめた「イッピン」をはじめ、「うまいっ!」「釣りびと万歳」「あさいち」などを制作しました。

地域放送では、お昼前の生活情報番組「ひるまえ直送便」で定期的にSDGsに取り組む人々や子育て情報を紹介したほか、金曜夜間「コネクト」では、南海トラフ地震や温暖化する海など地域の課題や、キャスターが町をぶらりしながら地域の魅力を伝えました。特集番組ではジャニーズ・宮田俊哉が旅する「アニメ聖地旅～倉敷」や「山下健二郎とおき絶景旅」、広島交響楽団と若者が一緒にステージを作る「広響×夢プロジェクト」「カープ県民大会議（ドラフト直前／開幕直前SP 計2本）」などを放送。SNSを活用した、多様なデジタル展開も行いました。

企画事業がイベント化した「広響×夢プロジェクト」は満足度97.2%、好感度70.6%と高い評価を得ました。また「被爆体験継承プロジェクト」では被爆者の体験談を、質問に合わせてAIが自動で答える装置の展示を担当し大きな反響を得た結果、G7サミットでも展示業務を受託しました。自主事業では、九州電力の安全教育ビデオや、渋谷育英会の活動紹介ビデオ等を手掛けました。

九州コンテンツ制作部

全国放送番組では、定時番組の「うまいっ!」「あさいち」「釣りびと万歳」を制作。地域放送番組では、定時の生活情報番組「はっけんTV」「はっけんラジオ」のほかに、九州沖縄の海に生きる漁業関係者を応援する「ウオカツ!」や、九州沖縄の高校のユニークな部活を紹介する「キミだけ応援団」を制作しました。さらに新たな旅番組として、マニアが案内することで見慣れた観光地の見え方が変わる「たびプラ」を開発しました。また、視聴者リレーションの向上を目指して、大学や自治体等とのチャンネルとなるミニ番組「福チャン!」を開発しました。

特集番組としては、沖縄復帰50年関連番組として「知花くらら“琉球”へのはるかなる旅」、美ら海水族館の飼育員の活躍を描いた「スゴいぞ!美ら海水族館」や、イリオモテヤマネコから進化の謎に迫ろうとする研究者に密着した「いきものミステリー・イリオモテヤマネコ奇跡の進化」を制作しました。さらに、朝ドラ「舞いあがれ!」の舞台となった長崎県五島列島に離島留学している高校生のドキュメント「夢に向かって舞いあがれ! ～長崎・五島列島奈留島～」を制作しました。

受託事業では、2022年度の朝ドラが前期・後期ともに九州が重要な舞台地となっていたことから、朝ドラ出演者によるトークイベントを番組化した「ちむどんどん舞台地リレートークショー」「舞いあがれ！およお！長崎・五島の魅力ば語ろうで」を制作。また「新・BS日本のうた」公開収録に合わせ、出演者による視聴者リレーションイベントを受託。福岡県久留米市と長崎県五島市で実施しました。

さらに、NHK北九州放送局の存在感を高める番組連動イベントを受託。北九州放送局の職員とともに、自治体、地域の大学などを巻き込みながら、公開収録「KitaQ good & boo（キタキュー・グー・ブー）」を実施、県内外から一般参加者158人が収録に参加し、局内外から好評を得ました。

東北支社

特集番組では、高精細映像のBS8K生中継「山形・庄内 歴史ロマンと食のまち」やBS8K・Eテレ「ココリコの生きものどアップ！超マイクロハンター」、東日本大震災の被災地を巡るBSP「バスで！列車で！篠山輝信×震災12年の東北旅」などを全国放送。地域放送では、東北のラジオ長寿番組「民謡をどうぞ」放送3000回記念の総合テレビ特番「民謡をどうぞ3000回！うだっコフェス」を公開収録で制作。また地域放送局に残る映像アーカイブスを活用した総合の特集番組「あなたの町の映像アルバム」を放送しました。このうち、北秋田市と仙台市では、上映会イベントを開催しました。

イベント受託事業では、コンサート「あなたの伴走曲は何ですか？」（仙台市）、「NHK仙台SDGsワールドin仙台市科学館」（仙台市）、篠山輝信さん出演回で連動し、震災関連イベント「アッキー×ヤナギー スペシャルトークショー」（南相馬）、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル at NHK仙台」（仙台市）と会館公開「やっぺえと奏でよう 杜の音楽祭」（仙台市）を実施しました。

北海道コンテンツ制作部

全国放送番組では、「さわやか自然百景」「うまいっ！」「あさいち」「釣りびと万歳」などの定時番組のほか、若き登山家の挑戦を描いた「白銀の大縦走～北海道分水嶺ルート670キロ」などの特集番組を制作しました。国際放送では、北海道の雄大な自然の魅力伝える「Wild Hokkaido!」と、鉄道旅の楽しさを伝える「トレインクルーズ」を制作しました。地域放送では、道央・道北・道東・道南4つの地域から、それぞれ5日間

にわたって地元の情報を伝える「エリア中継キャラバン」を、それぞれの地域で2回ずつ実施しました。

受託事業では、「鎌倉殿の13人」トークイベントを実施したほか、BSPの人気ドラマと連動した「岸辺露伴は動かない」展を中部支社と協力して実施しました。新しい展開としては、五輪新競技として選ばれた「ブレイキン」の北海道東北ブロック大会に合わせて、ダンスの魅力を伝えるイベントを札幌新会館のロビーで実施し、若い方たちに興味を持っていただきました。このほか、番組制作と視聴者リレーションを連携させた「九丁目怪談会」、自治体から受託した朝ドラ関連トークショーなど、新規開拓にも取り組みました。

(4) <映像ソフト販売>

コロナ禍による巣ごもり需要も落ち着き、厳しい状況でしたが、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」、連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」「岸辺露伴は動かないII」「正義の天秤」「わけもん」「正直不動産」など、想定を超えるヒットとなり、高い成果を上げることができました。

他にドラマでは連続テレビ小説「ちむどんどん」「オリバーな犬(Gosh!)このヤロウ」「幕末相棒伝」「悲熊 season2」「風の向こうへ駆け抜けろ」「恋せぬふたり」「雪国 - SNOW COUNTRY-」「しずかちゃんとパパ」「カナカナ」「ここは今から倫理です。」「星新一の不思議な不思議な短編ドラマ」「あなたのブツが、ここに。」「つまらない住宅地のすべての家」などを販売し、好評を得ることができました。

ドラマ以外では「TAROMAN/タローマン」「パンダ・彩浜(サイヒン) 和歌山・パンダー家のルーツ」「ギガントサウルス」「のりものすごいぞ」「恐竜超世界」「趣味の園芸これ、かっこイイぜ!」などを販売しています。

(株)NHKエデュケーショナルの協力により、「おかあさんといっしょ」では「最新ソングブック まほうのラララ♪」「みんなとつくるコンサート! ワンワンもおとうさんもいっしょ!」「メモリアルベスト またあおうね!」「ファミリーコンサート たいせつなもの、なあに?」「スペシャルステージ やっとあえたね! さあ、でかけよう!!」「ファミリーコンサート ようこそ、ファンターネ島へ!」、 「いないいないばあっ!」では「ワンワン25」「ピョンピョンアニマルパーティー」が好調でした。

NHKのアーカイブ映像からは「北島三郎 軌跡～NHKアーカイブス」「坂本冬美 NHK紅白歌合戦の軌跡」「柏原芳恵 NHKプレミアム コレクション」「由紀さおり NHKアーカイブスBOX 1969-2022」などのアーティスト系を商品化。「図鑑MOVE」は「あつまれ！どうぶつの森」ほか全3商品を新たにラインナップに加えました。また通販専売商品として「路（ルウ）～台湾エクスプレス～」「カールさんとティーナさんの古民家村だより」「忠臣蔵狂詩曲 No.5 中村仲蔵 出世階段」「京都人の密（ひそ）かな愉（たの）しみ Blue 休業中」「完本牡丹灯籠」などを販売しました。

新規発行ディスク数は、トータルで740ディスク（昨年517ディスク）となりました。

（５）＜番組提供＞

放送事業者への番組提供

＜チャンネル銀河＞＜AXNミステリー＞＜LaLaTV＞＜時代劇専門チャンネル＞＜BS12＞＜歌謡ポップスチャンネル＞ など32チャンネルに対し、大河ドラマ「西郷どん」「葵 徳川三代」や連続テレビ小説「あさが来た」「なつぞら」「マッサン」、アニメ、また、韓国・中国・欧米ミステリードラマなど、合計177タイトルを提供しました。ケーブルテレビ事業者には、39局へ連続テレビ小説「梅ちゃん先生」、大河ドラマ「天地人」など72タイトルを提供しました。

VOD事業者への番組提供

＜AMAZONプライム＞＜U-NEXT＞＜ドコモ・アニメストア＞＜Hulu＞＜FOD＞など、全31事業者にアニメ番組や幼児番組（DVD原盤）、韓国・中国ドラマなど海外番組含め348タイトルを提供しました。

大学への番組提供（アーカイブス事業）

新型コロナを機に、ニーズが高まるオンライン授業に活用するため、NHKで放送したドキュメンタリー番組を大学に提供する事業です。NEPが必要な権利処理を行った番組を大学が配信し、「オンライン授業用番組ライブラリー」として2021年度から4つの大学に提供しています。現在合計200番組を配信、約11万人の学生や教員たちが24時間いつでも利用できるようコンテンツの拡充を進めました。NHKの良質な番組により多く触れてもらうために、各大学と協力しこのライブラリーを活用したモデル授業を行い利用促進に努めました。

素材提供事業

素材提供業務は、7月の組織改正でアーカイブス事業部に統合。映像素材の編集機材などをNHK放送センター内に移設し、クライアントへのサービス向上と業務の効率化を図りました。

NHKの指示により2021年11月から試行している「公益性の高い団体が行う非営利事業での素材使用料の割引」に関しては、試行期間を延長（2023年3月31日まで）しました。素材提供の利用を促進することによって、地域や社会への貢献に寄与することを目指しています。

また、(福)NHK厚生文化事業団、(公財)放送番組センター、(福)聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年通り行っており、番組の利活用にも貢献しています。

(6) <キャラクタービジネス>

ドラマ展開では、2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の書籍へのライセンスが総数14種、総発行部数は85万部を超える大ヒットとなりました。続く2023年の「どうする家康」も前評判から高く、6種の書籍が発行され発行総数51万部となり、前作をしのご勢いです。

ドラマのタイトルロゴの商品化申請も例年になく多く、3月末までに合計121社から383件の商品化申請がありました。ドラマの舞台地を中心に売れ行き好調です。

アニメでは、「忍たま乱太郎」が放送開始30年を迎え、「忍たま30」を旗印に様々な展開を行いました。番組初の原画展を東京・大阪で開催、さらに30か所以上でPOP

UP SHOPを展開しました。また、サンリオとコラボしたアートを開発し商品化するなど、大きな盛り上がりを見せました。

アニメ「魔入りました！入間くん」の商品化展開も好調で、アミューズメント施設やカフェ、カラオケチェーンとのコラボなどを第3シリーズの放送に合わせて毎月実施するなどして、過去最高の売上を記録しました。

アニメ「おさるのジョージ」も好調を継続し過去最高の売上を更新しました。7月にはカフェ第2弾を東京ソラマチでオープンしたくさんのお客様にご来場いただきました。

幼児番組では、「おかあさんといっしょ」の中の人形劇「ファンターネ！」が2022年度から放送開始され、夏には最初の商品が発売。主力となるぬいぐるみ商品も12月に発売されるなど好調なスタートを切りました。

(7) <権利ビジネス>

海外の番組については、欧米ドラマ「スーパーマン&ロイス」「アストリッドとラファエル 文書係の事件録」「DOC 明日へのカルテ」「レジデント・エイリアン」「ジェシカおばさんの事件簿」「オールモスト・ネバー 夢見るバンド物語」「こちらベスト探偵団」「ファースト・デイ2」「ダイナの恐竜図鑑」、韓国ドラマ「七日の王妃」、中国ドラマ「上陽賦」「ロング・ナイト 沈黙的真相」などがNHKで放送されました。また、中国ドラマ「大唐流流～宮廷を支えた若き女官」「孤城閉～仁宗、その愛と大義～」、ブラジルドラマ「アベニダ・ブラジル～愛と復讐の悪女<デビル>」、韓国ドラマ「イ・サン」「トンイ」等を配信・放送で展開しました。ドキュメンタリーでは、「嘘と政治と民主主義ーアメリカ議会乱入事件の深層ー」「エリザベス女王 君主として 母として」「プーチン 戦争への道～なぜ侵攻に踏み切ったのか～」「ネッシー研究の現在地“環境DNA”で迫る伝説の正体」「アルプスの夏 ヒグマたちの旅路」「大自然満載！カナリア諸島」「ポンペイの起源～もうひとつの埋もれた歴史～」などを放送しました。ライフスタイルでは、「小さなミニチュア鉄道の大冒険 スコットランドの大地をゆく」を放送、「ソーイング・ビー」シリーズも引き続き放送され、人気を博しました。クラシック音楽番組は、チェコ国立バレエ カフカ「審判」、モノオペラ「人間の声」、コンサート「ベルリン・フィル ワルトビューネ・コンサート2022」「ウクライナ・フリーダム・オーケストラ創立記念演奏会」、ドキュメンタリー「音楽が奏でられるとき 魂は揺さぶられる～ヘルベルト・ブロムシュテット～」などを購入し、NHKで放送されました。

海外番組販売では、新作アニメが注目を集め「魔入りました！入間くん3」「不滅のあなたへ2」などが世界各国に販売されました。ドラマでは、連続テレビ小説「カムカムエブリバディ」「まんぷく」などや大河ドラマ「鎌倉殿の13人」「どうする家康」などが販売されました。他にも連続ドラマ「岸辺露伴は動かない」「正直不動産」など多彩なテーマのドラマ作品の販売が好調でした。ドキュメンタリーでは、「ワイルドライフ」「フランケンシュタインの誘惑」「コズミックフロント」などの自然・科学番組が人気を呼びました。

(8) <NOD事業>

NHKオンデマンド受託事業

NHKから受託したNOD配信番組の権利処理・権料支払いから原盤・メタデータ制作、配信、編成、広報までの一連の業務を円滑に実施すると共に、無料配信や即日配信など多様な配信サービスをサポートしました。

巣ごもり需要もあり、NODのお客様の視聴は年間を通じて好調で、特に連続テレビ小説「舞いあがれ！」や大河ドラマ「鎌倉殿の13人」については初回無料キャンペーン効果もあって多くの視聴数を獲得しました。また、下期からは、過去の名作番組を権利処理して配信する「掘り起し番組」も始まり、大河ドラマ「春日局」や連続テレビ小説「芋たこなんきん」などを新たに配信し好評を得ました。

3号業務（VOD提供）受託事業等

国内の配信事業者向けに番組を提供するVOD事業については、NODと同様に需要が伸びる中、FOD、Netflix、Huluなどへの番組提供のための権利処理と原盤制作を実施しました。

またNHKデジタルセンターの依頼により「NHKプラス」の原盤制作、TVer提供番組の原盤制作も行いました。

(9) <受託映像国際放送等>

海外現地法人

当社は、NHKから欧米における映像国際放送及び番組制作支援業務を受託しており、これら業務をNHKの関連団体であるNHK Cosmopedia America (NCMA) とNHK Cosmopedia Europe (NCME) に再委託して行っています。

映像国際放送は、北米地域ではNCMAが放送する24時間日本語有料チャンネル「TV JAPAN」、欧州・北アフリカ・中東地域約60カ国においては、同じくNCMEが放送・配信する24時間日本語有料チャンネル「JSTV」を通じて行っています。

「TV JAPAN」及び「JSTV」は、NHK番組を中心に民放番組や邦画も含めて編成されており、そのうち1日平均5時間をNHKから受託した「邦人向け協会衛星国際放送」として放送しています。

番組制作支援業務としては、NCMAには、活躍を続けるエンジェルス・大谷選手の試合などのMLB中継制作に加え、BS1や国際放送NHKワールドJAPANの定時・特集番組の制作支援を委託しました。また、NHK国際放送局NYスタジオからのNHKワールドJAPAN「NEWSLINE」の制作・送出業務やスタジオ運用管理業務も委託しました。このように現地にNCMAという拠点を持つ強みを生かしてNHK番組の制作を幅広く支えました。

NCMEにもNHK番組制作支援及びコーディネート業務を委託し、「生中継 エリザベス女王国葬」やBS4K「ヨーロッパ駅ロマン」のほか、NHKワールドJAPANの多岐に渡るコンテンツ制作支援を行いました。

さらに、タイにおいても当社が出資するNippon Production Service (NPS) を通じて、NHK国際放送の取材・制作支援や現地向けNHK番組販売などの分野で業務を推進しました。

(10) <業務改革への取り組み>

業務改革推進プロジェクト

社長直轄のプロジェクトとして2020年から新システム導入を推進してきた業務改革推進室は、2022年5月に下記の4つの領域で新システムをリリースしました。

1. 会計システム：ERPシステムを導入し適切な経理処理で透明性の高い会計を実現。外部監査の対応や内部統制を強化します。

2. 管 理 会 計：新システムの稼働に合わせ、適切で迅速な意思決定を行うための損益管理等の情報が取得でき経営のスピードアップを実現します。
3. 著 作 権：複数の部署で異なる著作権業務システムを使用していましたが、新システムでは統合し、業務の標準化・効率化を実現します。
4. 事 業 管 理：すべての部門が関わる発注・稟議・契約等の業務プロセスの見直し、新システムへ移行しました。

また、新システムのリリース後、2022年10月に業務改革推進室は業務改革プロジェクトとして、導入したシステムの改善や電子契約の導入等に取り組んできました。

(11) < 業務支援 >

アーカイブス事業

NHKの放送番組を映像・音声素材、データとともに登録・保存する業務、また保存されているコンテンツの活用に関わる業務を行っています。4K8K映像については完プロとクリーンの登録に加えて、未編集素材の受入を開始したことで保存と活用の幅が一層拡大しています。

NHKの膨大な映像資産の価値向上を図るため、アーカイブスを整備し、コンテンツのリスク情報を体系的に管理するMCGメタデータ・コンテンツ管理整備業務を始めました。この中で、素材再利用アドバイザー窓口には、番組制作者から年間650件を超えるアーカイブ映像の調査依頼が寄せられ、安心して映像と音声を再利用できるよう問い合わせに応えました。そのほか重要な番組2,000本以上の外部提供映像の実態を調査し、リスク情報の洗い出しを行いました。アーカイブス未保存の番組テープを探し出し、保存化する番組発掘業務では、芸能・教養・科学番組など幅広い分野からテレビ番組2,600本、ラジオ番組1,000本を発掘し、2,300本のテレビ・ラジオ番組を登録・保存。2月、3月には発掘成果を活用した上映会イベントを川口アーカイブスで実施しました。

アーカイブスに保存された過去の膨大な番組や映像素材を活用した番組制作も行っています。特集番組「TV70年！蔵出し映像祭り」を総合テレビで放送したほか、定時番組「プレミアムカフェ」（BSプレミアム）や特集番組「あの日あのときあの番組」「にっぽんの鉄道・蒸気機関車」（総合テレビ）を制作。また16ミリフィルムを高画質化してBS4KとBSプレミアムで放送する「よみがえる新日本紀行」やNEPレストアシシステムで4K化した「NHK特集」「ふたりのビッグショー」「人形劇・平家物語」「ぐるっと海道3万キロ」などを放送。4K放送の可能性を広げるとともに、NHKアーカイブスの存在感を示しました。

また「映像の世紀バタフライエフェクト」の映像リサーチ・権利確保業務を行い、番組の根幹を支えました。

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構（a R m a）、JASRACなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD・VOD、CS・BS、CATV、航空機内上映への提供等番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHKからの制作受託番組の放送料支払いの審査業務、商標出願管理業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。また、知財センター著作権・契約部からの委託により、インターネットに無断で投稿された動画の削除を当該サイト運営者に依頼するなど番組の不正利用対応を行い、さらに同センターから国際契約作成業務を受託しました。

この他、NHKグループ経営戦略局からの委託により、一般事業者へのNHK番組のまるごと提供に関する窓口対応、権利処理、納品業務を行いました。

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「プロフェッショナル 仕事の流儀」などの定時番組、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」、「どうする家康」、連続テレビ小説「ちむどんどん」「舞い上がれ！」などのドラマ、「超進化論」などのNHKスペシャルについて、制作部門と連携して権利者と交渉、放送及び配信、海外発信などの権利を確保し、併せて権利情報データ作成も行いました。合わせて「常時同時配信（NHKプラス）サポート業務」として制作現場からの権利処理に関する相談窓口業務を受託し、各種問い合わせに対応しました。

NHK第1制作センターからは、一部の学校放送番組について再放送や展開のための権利情報整備業務に加え、2022年度からスタートした新サービス「NHKラーニング」で配信されるコンテンツの権利処理業務を受託、権利者への支払い業務までを担当しました。さらにNHK高知放送局、大阪放送局、旭川放送局などからドラマやドキュメンタリーの再放送権利処理業務を受託しました。

独自事業としては、放送番組国際交流センター（JAMCO）よりNHKや民放番組の海外への提供のための権利処理業務を受託しました。

（12）＜新規事業等への取り組み＞

イノベーション戦略室

イノベーション戦略室を中核に、事業開発とDX推進に取り組みました。

3Dスキャンと超高解像度映像技術を活用した3DCGコンテンツ事業では、国宝や文化財や稀覯本等の映像体験拡張手法を開発し、美術館やNHK番組への展開を行いました。ローカル5Gを活用した演出拡張、DXワークフロー開発は、総務省公募事業で実証実験を行い、ケーブルレスシステムの高度化を図りました。ユニバーサルサービス領域では、手話CGのシステム、アバター開発を進め、NHKオンラインでの試験実装を開始しました。昨年度システム基盤を開発した「NHKグループモール」は、実運用を始め、グループ企業とともに新たな商材開発とコンテンツ提供を行いました。NHKコンテンツの外部提供新規事業である「オンライン授業用番組ライブラリー」は、4つの大学で利用を継続しています。

（13）＜リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取り組み＞

リスクマネジメント強化及びコンプライアンス推進のため「リスクマネジメント委員会」をWeb会議方式で計3回開催し、2022年度の活動方針や「内部統制の整備状況」、「リスク点検活動」についての承認等を行いました。また、各部門で作成している「業務プロセス図」から抽出したリスクについて、支社を含む全部門とのレビュー面談をWebで行い、必要に応じて修正等を助言しました。

「コンプライアンス推進強化月間」には、パワーハラスメント防止をテーマに、社外講師による管理職向け研修を行ったほか、全社員向けの研修も別途実施し、当社だけでなく（株）NHK文化センターの社員も参加して、情報や知識を共有しました。また、各部門において様々なテーマで勉強会等を開催し、最近のリスク事例や注意すべきことなどを共有しました。

情報セキュリティへの取り組みとしては、4月に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の更新審査を受け、登録認証が更新されました。また、資産管理ソフトを新たに導入し、可搬型記録媒体の管理状況について全部門を対象に調査を行いました。

2022年4月に施行された改正個人情報保護法に対応し、改定した規程類とプライバシーポリシーについて、逐次周知したほか、委託先での個人データの安全管理を徹底するためのアンケートとチェックシートを作成し、使用を開始しました。

内部監査部門は、4部門の監査を行いました。監査結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会にも報告し、取締役会で上期総括報告と年間総括報告を行いました。

(14) <法務・適正取引、顧客対応、DX推進への取り組み>

法務・審査部

契約稟議の審査件数は年々増加傾向にあり、今期においてもおよそ6,000件について精度の高い審査を維持しました。

個別には、本社・支社における「下請法」の遵守や「業務委託の適正性確保」の強化のために、研修・勉強会の企画・実施や日常的なコミュニケーションを通じて啓発・指導を継続しました。契約審査業務としては、事前相談の働き掛けと新システムSINGを通しての内容の精査によって、適正かつ迅速な対応を実施しました。「取引基準」の改定などに伴って各種契約書ひな型を適宜修正・更新して利便性を高めると共に、リスク回避に寄与しました。

さらに、海外の大手配信会社との契約締結をサポートするなど複雑で高度な契約交渉に適応し、また、地域の活性化と各地の魅力を国内外に発信するために、契約相談を通して本社・支社間の密接な連携に努めました。

併せて、MHDからの要請に応じて、傘下五社の法務業務・契約審査業務の集約化・効率化を図るために、傘下各社の課題の洗い出しに中心的な役割を果たしました。その一環として、法律相談と弁護士起用のMHDに集約・統合され、現業部門からの法律相談への迅速な対応と外部弁護士の利益相反の発生防止が可能となり、当社をはじめとする傘下各社の関連業務の効率化と経費の削減を実現させました。

コンテンツ展開センター

外部に委託をしている顧客対応窓口業務（電話受付、メール受付）は、管理を法務・審査部からコンテンツ展開センターに移管し、問い合わせの多い商品化やライセンスについ

てこれまで以上に迅速に対応できるようになりました。他部署とも連携をはかりながら、会社の顧客満足度向上に貢献しています。

D X 推進部

システム関連業務としてインフラ管理・セキュリティ対策の強化を図るとともに、業務改革推進プロジェクトと連携した新ERP導入や、MS365有効活用基盤の構築による業務の効率化、利活用の促進など新たな業務にも取り組みました。

インフラ管理面では、全国支社のWAN回線増速化、レイアウト変更に伴うLAN工事の実施、サイバー攻撃に対するセキュリティ管理などを実施し、円滑で安全な業務実施環境を整えました。

また全社員・直接雇用・派遣スタッフに対し接続環境を整えたPCを配布。一元的な管理を実現し、紛失やデータ流出へのリスクを大幅に低減しました。

セキュリティ対策面では、11～12月にかけて標的型攻撃メール訓練と研修会を実施。全社のITリテラシー向上を図りました。

(15) <分野別売上高>

(単位：千円)

区 分	第33期 (2021.4.1～2022.3.31)		第34期 (2022.4.1～2023.3.31)		対前年度増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
放送番組制作	41,806,209	67.4%	45,308,425	66.6%	3,502,215	8.4%
映像ソフト販売	3,469,868	5.6%	2,622,143	3.9%	△847,725	△24.4%
イベント・ソフト制作	6,601,016	10.6%	8,675,199	12.7%	2,074,182	31.4%
番組提供・デジタル制作	4,149,048	6.7%	3,038,458	4.5%	△1,110,590	△26.8%
キャラクター事業	742,663	1.2%	866,698	1.3%	124,034	16.7%
権利ビジネス	4,125,894	6.7%	6,404,909	9.4%	2,279,014	55.2%
N O D 事業	586,151	0.9%	557,376	0.8%	△28,775	△4.9%
受託映像国際放送	546,055	0.9%	579,771	0.9%	33,715	6.2%
合 計	62,026,907	100.0%	68,052,979	100.0%	6,026,071	9.7%

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考) 2022年度 コンクール等受賞一覧

【国内コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および賞品名
放送人グランプリ 2022 (第22回)	グランプリ大賞	土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」
第48回 放送文化基金賞	番組部門 テレビドキュメンタリー番組/優秀賞	E T V特集「“玉砕”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/優秀賞	E T V特集「“玉砕”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/優秀賞	忠臣蔵狂詩曲No. 5 中村仲蔵 出世階段
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	希林と裕也 ～トリックスター夫婦による昭和平成史～
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	ドラマ10「オリバーな犬、(Gosh!!)このヤロウ」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	B S 1スペシャル「歩兵第11連隊の太平洋戦争」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	B S 1スペシャル「“アジアンヘイトクライム”と戦う～分断深まる アメリカ～」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	B S 1スペシャル「欲望の資本主義2022 成長と分配のジレンマを越えて」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/選奨	土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」
第59回ギャラクシー賞	テレビ部門/選奨	謎の日本人サトシ ～世界が熱狂した人探しゲーム～
2022年ギャラクシー賞	10月度月間賞	勝敗が決まる瞬間2022～ドキュメント 小倉百人一首競技かるた高校選手権～
2022年ギャラクシー賞	8月度月間賞	土曜ドラマ「空白を満たしなさい」
2022年ギャラクシー賞	8月度月間賞	プレミアムドラマ「拾われた男」
第38回 ATP賞テレビグランプリ	グランプリ(全部門通じて)	E T V特集「“玉砕”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～」
第38回 ATP賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門/最優秀賞	E T V特集「“玉砕”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～」
第38回 ATP賞テレビグランプリ	ドラマ部門/優秀賞	忠臣蔵狂詩曲No. 5 中村仲蔵 出世階段
第38回 ATP賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門/奨励賞	希林と裕也 ～トリックスター夫婦による昭和平成史～

第38回 ATP賞テレビグランプリ	ドラマ部門/奨励賞	土曜ドラマ「ひきこもり先生」
衛星放送協会オリジナル番組 アワード	番組部門 ドキュメンタ リー/最優秀賞	希林と裕也 ～トリックスター夫婦による昭 和平成史～
衛星放送協会オリジナル番組 アワード	番組部門 中継/最優秀 賞	フランス中継「恋しいパリ」第二部
第70回 菊池寛賞	菊池寛賞	映像の世紀バタフライエフェクト
東京ドラマアウォード	単発ドラマ部門/グラン プリ	ドラマ10「オリバーな犬、(Gosh!!)このヤロウ」
第22回 早稲田ジャーナリズム大賞	草の根民主主義部門/大 賞	E TV特集「“玉砕”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～」
科学放送高柳賞	最優秀賞	NHKスペシャル「恐竜超世界 in JAPAN」
第77回 文化庁芸術祭	テレビ・ドラマ部門/大 賞	忠臣蔵狂詩曲No. 5 中村仲蔵 出世階段
ポッドキャストアワード	メディアクリエイティブ 賞	Spotify「聴くドキュメント72時間」
グッドデザイン賞	グッドデザイン・ベスト 100	ローカルフレンズ滞在記

【国外コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および賞品名
第45回創作テレビドラマ 大賞	子ども・青少年：家族向 けエデュテインメント部 門/銀賞	家出娘
AIB国際メディアコンク ール	自然界部門/最優秀賞	NHKスペシャル「新・映像詩 里山 第1回 新潟の棚田 豪雪と生きる」
ABU賞	テレビ・ドキュメンタリ ー部門/ABU賞	NHKスペシャル「新・映像詩 里山 第1回 新潟の棚田 豪雪と生きる」
コペンハーゲン映画祭	長編ドキュメンタリー部 門/最優秀賞	謎の日本人サトシ～世界が熱狂した人探しゲ ーム～
アジア・テレビ賞	ドキュメンタリーシリー ズ部門/最優秀賞	NHKスペシャル「新・映像詩 里山」
AAA(アジア・アカデミ ー・クリエイティブ・アワ ーズ)	自然史・ワイルドライフ 番組部門/最優秀賞	ワイルドライフ スペシャル「西表 生命つ むぐ島」

3. 対処すべき課題

NEP中期経営計画（2021-2023年度）の最終年度となる2023年度は、引き続き5つの重点項目（①コア事業の革新、②新規事業の開拓、③地域サービスの向上、④Smart Work、⑤SDGsへの貢献）を柱に、社会に貢献し「新しいNHK」を支える高品質のコンテンツを生み出し、多彩なサービスであらゆる世代に届けていきます。また、株式会社NHKメディアホールディングスとともに他の傘下子会社と緊密に連携し、事業展開を活性化してNHKブランドの向上に寄与します。受信料値下げや衛星波削減で番組制作が減少する厳しい経営環境にあっても、ガバナンスを強化し業務の効率化と生産性向上の取り組みを徹底して進め、持続可能な経営体制を強化していきます。

NHKが2023年度の改定に当たって掲げた4つの基本方針（①デジタル空間での公共性の確立／あらゆる世代に届ける、②時代を超える本物のコンテンツ制作、③地域密着と地域連携を徹底支援、④映像・音声資産の再構築と価値還元）は、いずれもNEPが培ってきたコアコンピタンス「制作力・展開力・支社のネットワーク」を確実に活かせるものです。新たな衛星波・NHKBSプレミアム4Kも支える世界水準のコンテンツの制作、デジタルでの若年層をはじめ新しい視聴者を引き寄せるサービスや作り方改革の取り組み、全国各地域での番組連動による多彩な視聴者リレーション活動、NEPビデオレストアサービスや権利処理のスキルを活かしたアーカイブス事業に、より積極的に取り組んでいきます。

NEPの未来を支える新規事業では、手話CGやローカル5Gによる撮影・演出のDX、NHKグループモールなど、社会の課題を解決して人々の役に立つこと、グループや傘下子会社の強みをかけ合わせて豊かなサービスを提供する姿勢を一層に大切に、開発と強化を進めていきます。

SDGsに関しては、NHKおよび中間持株会社・傘下子会社との連携をさらに強化し、エネルギー対策・制作プロセスの変革・社会貢献・ジブンゴト化の推進の4つを柱に、明確な数値目標のもと、主要事業の持続可能な発展と環境経営の推進に取り組みます。

なお、経営課題に迅速かつ効率的に取り組むための組織改正を7月に行います。クリエイティブ事業センターとイノベーション戦略室の事業の一部を合体して、新たに第4制作センターとして再配置し、独自事業の映像やイベントの制作での、3制作センターとの連携を強化。コンテンツの付加価値を高め、NHKに素材や番組として提供する取り組みを

進めていきます。また、2022年度に九州支社と北海道支社で行った、制作部・企画事業部・総務部の3部をコンテンツ制作部の1部に統合する改正を、今回は中国支社・東北支社で実施します。放送と事業が密接に連携した視聴者リレーション事業の開発と運営を効率的に行っていきます。

2023年度もNHKエンタープライズは、経営理念「Enterprises for All！冒険、創造、貢献。社会のために、すべての人のために」の下、全社員が一丸となって、様々な事業に取り組んでいきます。

4. 設備投資等の状況

当期の

設備投資総額は11億13百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産 建物・構築物	8 6 2	Web会議用ブース レイアウト変更LAN工事 電話回線その他
有形固定資産 工具器具備品	176 65 13	業務用PC 電話交換機 什器その他
無形固定資産 ソフトウェア	765 74	新基幹システム 手話コンシェルジュ、その他
計	1,113	

5. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

当社は2023年3月1日付で、当社の保有する株式会社NHKグローバルメディアサービス、株式会社NHKエデュケーショナル、株式会社NHKアート、株式会社NHKプロモーションの株式を、親会社である株式会社NHKメディアホールディングスに吸収分割により承継しました。

7. 事業譲受の状況

該当事項はございません。

8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はございません。

9. 財産および損益の状況の推移

(単位：千円)

区 分	第 31 期 (2020 年 3 月期)	第 32 期 (2021 年 3 月期)	第 33 期 (2022 年 3 月期)	第 34 期 (2023 年 3 月期)
売 上 高	60,702,871	59,081,011	62,026,907	68,052,979
営 業 利 益	2,908,613	2,235,524	1,985,077	4,038,167
経 常 利 益	3,280,046	2,334,960	2,051,608	4,160,332
当 期 純 利 益	1,277,029	1,497,386	1,512,604	4,136,856
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	216,666 円 00 銭	233,201 円 38 銭	238,459 円 11 銭	656,683 円 82 銭
総 資 産	28,791,741	32,501,895	37,070,312	38,512,470
純 資 産	16,158,423	18,947,404	19,283,697	20,952,534

10. 主要な事業内容

- (1) 放送番組の企画、制作、購入
- (2) 有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- (3) 映像国際放送の実施に関連する業務
- (4) 放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- (5) 放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

1 1 . 主要な事業所等

本 社	東京都渋谷区神山町4番14号 第三共同ビル
近畿総支社	大阪府中央区谷町三丁目1-18 NS21ビル
四国支社	松山市堀之内5 NHK松山放送局内
中部支社	名古屋市東区東桜一丁目13-3 NHK名古屋放送センタービル
中国支社	広島市中区大手町二丁目11-10 NHK広島放送センタービル
九州支社	福岡市中央区六本松一丁目1-10 NHK福岡放送センタービル
東北支社	仙台市青葉区本町二丁目9-7 仙台YFビル
北海道支社	札幌市中央区北一条西九丁目1-5 NHK札幌放送局内

NHKアーカイブス 埼玉県川口市上青木三丁目12-63

ワーステーション江戸 茨城県つくばみらい市南太田1176

1 2 . 従業員の状況

	従 業 員	NHK出向者等	計	増 減	平均年齢
男	360名	94名	454名	△ 32名	52才 7か月
女	185名	18名	203名	△ 8名	46才11か月
計	545名	112名	657名	△ 40名	50才10か月

注1：役員のほか、NHKなど外部への出向者は含みません

13. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社の状況

当社の親会社は、2022年12月1日に設立された株式会社NHKメディアホールディングスであり、2023年3月より当社の株式6,080株を保有することになりました。これは当社の議決権の100%にあたります。

なお、NHKメディアホールディングスは、NHKの子会社にあたることから、当社はNHKの放送法上の子会社であります。

当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っております。

(2) 重要な子会社の状況

該当事項はございません。

(3) 親会社等との間の取引に関する事項

当社では、NHKとの取引をするにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

14. 主要な借入先と借入額

該当事項はございません。

Ⅱ．会社の株式に関する事項

- | | |
|------------|---------|
| 1．発行可能株式総数 | 10,000株 |
| 2．発行済株式の総数 | 6,421株 |
| （自己株式数 | 341株） |
| 3．議決権総数 | 6,080個 |
| 4．期末株主数 | 1名 |
| 5．株主 | |

株主名	持株数	持株比率
株式会社NHKメディアホールディングス	6,080株	100%

Ⅲ. 会社役員に関する事項

1. 役員の地位、氏名、担当、兼職の状況

(2023年3月31日現在)

地 位	氏 名	担 当	他の法人の代表または重要な兼職の状況
代表取締役社長	松本 浩司	全体統括 CHRO	
専務取締役	矢野 達史	NHK取引統括、地域統括、海外戦略統括、中部支社長(7/1から)	
専務取締役	河内 秀則	経営企画統括、海外戦略統括補佐	
常務取締役	諏訪 雄一	新規事業開発・SDGs統括 大阪・関西万博統括 建築管理(建設業経営管理業務責任者)	
常務取締役	押田 敦	一般取引統括	
取締役	松本 俊博	CDXO イノベーション戦略統括	
監査役	行成 博巳		
監査役 (社外)	大月 将幸		弁護士・公認会計士
監査役 (社外)	海野 正一		
監査役 (非常勤)	小山 雅典		NHK内部監査室監査部 部長

注1：2022年6月28日付で、荒木美弥子、追杉恭光、屋敷陽太郎、神田真介が取締役(非常勤)に、行成博巳が監査役に就任しました。また、同日付で山崎秋一郎、菅康弘が取締役を、吉野真史、白川友之が取締役(非常勤)を、渥美哲が監査役を退任しました。

注2：2022年7月1日付で、上杉寿理が取締役(非常勤)に就任しました。

注3：2022年12月1日付で、荒木美弥子、土井成紀、上杉寿理、追杉恭光、屋敷陽太郎、神田真介が取締役(非常勤)を退任いたしました。

注4：監査役行成博巳は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。監査役(社外)大月将幸は、弁護士・公認会計士の資格を有し、法務、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。監査役(社外)海野正一は、内部統制に関する知見を有し、企業経営に高い見識を持っています。

2. 取締役・監査役の報酬総額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象役員数
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	105,456千円	86,460千円	18,996千円	8人
監査役 (社外役員を除く)	11,760千円	11,760千円		1人
社外役員	14,553千円	14,553千円		2人

※使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

※非常勤取締役10人、非常勤監査役1人に対しては、報酬を支払っておりません。

3. 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、大月将幸監査役は当年度に開催された取締役会に5回出席[5回開催中]、監査役会に6回出席[6回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

海野正一監査役は当年度中に開催された取締役会に5回出席[5回開催中]、監査役会に6回出席[6回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

IV. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

E Y 新日本有限責任監査法人

2. 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬 28,000千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っています。

3. 会計監査人の非監査業務の内容

該当事項はございません。

4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としております。

5. 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はございません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法第362条第4項第6号の規定や会社法施行規則の規定に従い、当社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）について、以下のとおり、取締役会で決議しています。

（平成27年9月17日 取締役会決議）

（1）当社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章と行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。

また、コンプライアンスを確保するため、「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、全社的に法令遵守が確保される体制をとっている。

今後さらに取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、すでに設置されている「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。

②取締役会については、「NHKエンタープライズ取締役会規則」が定められ、その適切な運営が確保されており、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に職務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止している。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図っていく。

③同様に、社長、常勤役員ほかで構成する常勤役員会については「役員規程」、執行役員については「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保していく。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図っていく。

④コンプライアンス関連の研修、社内報等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「稟議規程」「経理規程」により、取締役、社員の職務執行の透明性を向上させる。

(2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ①「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、適切かつ確実に保存・保管され、「常勤役員会議事録」については、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置かれている。
- ②「文書管理規程」に定められた文書の扱いを遵守することにより、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。

(3) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①当社は、当社の事業に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアルの整備等を進めている。また、公共放送グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払っている。さらにNHKグループ全体にかかわるリスクについては、「NHKグループ通報制度規程」にもとづいて、NHK総合リスク管理室に、速やかに報告・連絡することになっている。
- ②新たなリスクが発生した場合には、必要に応じ、速やかに対応責任者となる取締役を定める。

(4) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①職務権限および職制を定め、取締役の職務権限と責任および指揮命令系統を明確にしている。
- ②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。
- ③ITを活用した稟議システムを構築し、迅速な意思決定を図っている。
- ④中期経営計画およびそれを受けた年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行っている。
- ⑤さらに効率的に職務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討していく。

(5) 当社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ① NHKの子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。
- ② NHKは、「関連団体運営基準」に関する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基づき、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。
- ③ NHKの監査委員は、NHK役員の職務の執行を監査するため必要があるとき、当社の事業の報告を求めたり、当社の業務および財産状況を調査できることになっており、その場合には、当社は、適切な対応を行う。
- ④ NHKは、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守って、放送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、良い放送を行うことを目的とした法人である。
また、放送法により、NHKに対する公共的規制は、国民の代表である国会を中心として行われ、毎年度の予算・事業計画は国会での承認を要している。
NHKには、経営方針その他その業務の運営に関する重要事項を決定する権限と責任を有する経営委員会が設置され、会長等による業務の執行と監督の機能とが明確に分離され、適正なガバナンスが確保されており、業務の実施にあたっては、
「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」の策定、「通報窓口」の整備などにより、適正が確保されていると理解している。
- ⑤ 当社の子会社等については、定期的に業務報告を受けており、当社担当取締役によって、日常的にチェックが行われている。
また、子会社等のコンプライアンスについては、子会社等の社長を責任者とする体制を整備し、法令遵守にあたることになっている。

(6) 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- ① 監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については、監査役会の同意を得た上で、取締役会が決定する。なお、平成21年3月、監査役から求めがあったので、監査役補助者を任命している。
- ② 監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。

(7) 当社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制、報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- ① 取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社および当社グループに重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。
- ② 監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。
- ③ 当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁止する。

(8) 当社の監査役職務の執行について生ずる費用の前払い等に係る方針に関する事項、その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役からその職務の執行について生ずる費用の前払い、負担した債務の弁済等の請求があったときは、当該請求に係る費用または債務が、監査役職務の執行に必要な場合を除き、当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役6名で構成されていて、社外監査役2名を含む4名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備していて、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的を実施してコンプライアンスの徹底を図っています。当社の内部監査部門では、年度ごとの内部監査計画に基づき内部監査を実施しています。

3. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2023年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。